

殿馬場中だより 生徒のみなさんへ

堺市立殿馬場中学校
令和3年4月21日
第1号
校長 茶谷 佳行

4月21日は創立記念日です！ どうして「殿馬場中」って言うの？

校名の由来！

今年も学校だよりを「保護者・地域向け」と「生徒向け」の2つに分けて発行します。生徒向けは、主に集会があるときに発行したいと思います。

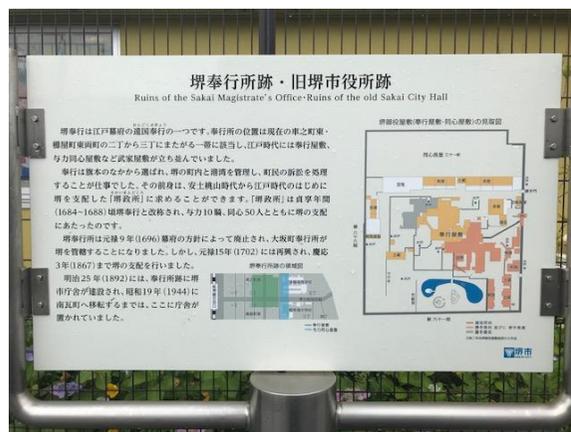
さて今日4月21日は創立記念日です。今年で創立73年目になります。

昨年度、殿馬場中学校に転動してきて、学校名の由来が気になったので調べてみました。歴史があって由緒ある校名です。読んでみてください。（「殿馬場のあゆみ」より）

昭和22年、新しく誕生した新制中学校は、母体となる旧制の学校がない上に、十分な準備期間もなく発足しましたので、校名についても、とりあえず第1から第9まで番号がつけられ、本校は、堺市立第二中学校と称されるようになりました。

発足当時、仮校舎にしていた小学校や旧制中学校等からの移転も完了し、それぞれの中学校で教育活動が始まるようになると、ナンバースクールでは学校の所在がわかりにくいということと、将来の市域の拡大や学校の増加も予想されることから、昭和25年3月末日をもって「ナンバー校名」は廃止され、同年4月1日からは、地名をつけた校名に改められました。これにより本校は堺市立第二中学校から殿馬場中学校に改称されました。殿馬場という地名がないのに殿馬場の校名にしたのは、本校が所在しているこの一帯は、その昔殿馬場という町名で呼ばれていたからです。

本校の正門の向かい側に、「堺奉行所跡・旧堺市役所跡」と書かれた標柱石が建てられています。堺は、江戸時代は徳川幕府の直轄地（幕府の支配地）でしたので、堺奉行所がおかれていました。奉行所は、櫛屋町と車之町にまたがる東2・3町の区域で奉行と与力・同心の屋敷がありました。奉行所には、奉行などが乗る馬もおかれ、馬の運動や奉行などが乗り



まわる馬場もつくられていました。奉行は「殿」と呼ばれていたため、「殿の馬場」がそのまま「殿馬場」と呼ばれるようになりました。元禄8年（1695年）の「泉州堺之図」に櫛屋町と車之町の一帯が、殿馬場という町名になっていることからみると、相当古からの町名であると考えられます。2枚の写真は、正門を出てすぐのところにあります。下校時に確認してみてください。

校章の由来！

昭和22年の校章制定当時、新制中学校は、「新教育」として大きな期待が寄せられており、教職員・生徒・保護者は、堺の「二中」としての抱負と矜持に満ち溢れていました。

校章は中学校の「中」を図案化した六星を基盤とし、由緒ある堺の市章を配し、その中心に「二」の数字をうかびあがらせたものです。

六星は、中学校を意味するとともに、真理と正義の学問の道を追求してやまない無限の広がりや叡智をあらわしています。市章は、堺市立を意味するとともに、3本の市は、知・徳・体の教育の柱をあらわし、その全面的発達による調和のとれた人格の形成と豊かな人間性の育成をめざしています。

二の数字は、創立当時の校名を誇らしくあらわしたものです。

六星・市章・旧校名を図案化した本校の校章は、どんな困難にも揺るがない磐石の基盤を持ち、無限の広がりや限りない発展を象徴するものとなっています。（「殿馬場のあゆみ」より）



昨年度、生徒会のシンボルマークを作りました！

昨年度は、新年度のスタートから臨時休校となり、本格的に授業ができたのは、6月に入ってからでした。スタートをしたとは言え、生徒会の活動も制限があり、1学期はほとんど活動ができませんでした。

前期の生徒会がほとんど活動ができなかったため、当時の3年生（72期生）の生徒会役員が中心となって何かこれから先も残るようなものを作ろうとなり、生徒会のシンボルマークを考えました。右に示したものがそのシンボルマークです。校名の由来をもとに作ってくれました。

また、PTA活動もできなかったため、活動費を使ってPTAが全生徒にこのシンボルマークを使ったタオルを作ってくれました。

これからも、72期生が中心となって作ったこの生徒会のシンボルマークを引き継いでください。

<感染状況が大きく広がっています！>

今年こそは、例年通りに学校の教育活動ができるだろうとよろこんでいましたが、たいへんな状況になってきました。特に変異ウイルスは、若年層にも感染力が強いようで、より対策が必要になってきます。みなさんもこの状況をしっかりと理解し、感染対策をお願いします。マスクをしていないときが危険だと言われています。「登校前の検温と健康チェックカード」「マスクの着用」「手洗いの徹底」などの感染拡大防止対策は、これからはしっかりと実行してください

